

C 6 力 年 追 跡 研 究

戸 莉 進 織田 長繁 服部 晴子
富田 昇 三谷みちる 渥味 久子

I 附中から附高への6カ年の学習成績変化の追跡（その6）

戸 莉 進

本年度の研究のあらまし

生涯教育のコアとしての重大な意義をもつ中等教育段階の6カ年を、一人一人の生徒達に、それぞれ力一杯に充実したものとして送らせることを希求した本研究も、49年度からはその第二期に入り、

① 関連図表を出発点として、如何なる段階で、どのようにして生徒を指導し、保護者にはたらきかけたらよいか。

② 学業成績の外に、伸びのよい生徒育成のための資料源として、どのようなものが有効で、それらをどのように位置づけたらよいか。

③ 望ましい評価の在り方と、その具体的方法。

などを実証的に探求してゆくことを計画、文部省から本研究については2回目の科研費補助金も受けて、一応次の2つの成果を得た。

(1) 中3の生徒の成績変動の追跡から得られた、各教科および、全科総合の成績から推定される、高校での可能性の領域が、中2時代に既にある程度、そして中3においてはかなりの幅で狭められるということの再認識。

(2) 高2の生徒の、高校における2年間の成績と、彼等の中学時代における成績からの推定値とのズレの少いことの確認がなされたこと。および少数の例外についての、要因推定の case study。

要約すれば、これだけのことに過ぎないようであるが、その背景となっているデータの量は、余り小さなものではないにも拘らず、その処理が、かなりの短時間内に完了されたことの原因は、ひとえに、われわれのグループの一員である富田の、優れた頭脳とねばりによって達成された、データ処理のためのコンピュータープログラムの完成に依存するものである。

このプログラムの活用によって、なされたもう一つの織田による仕事の要点は、これにつづく報告Ⅱとして本集に記載することができたが、上記の仕事は、その資料の多過ぎることと、もう一つは、昨年度予算の枠の関係で英数についてしか印刷できなかった関連図表の、残りの部分についての発表を求められるお便りを、各方面から頂戴したこともあって割愛せざるを得

ないこととなり、今回は、前報に引き続いて、社会と、理科についての関連図表を所載することとした。(国語についてはさらに来年度に見送らざるを得ない状況)

社会科および理科の関連図表について

いわゆる内容教科の代表ともいえる社会科および理科の、中・高学習成績関連図表は、次頁以降のものであるが、英語や数学とはまた別の、注目に値する、いろいろの傾向を看取することができる。紙数の許される限度で、特に著しいものを挙げておく。

(1) 内容教科と用具教科間の関連

●基本的には、非常に異ったパターンといえる。

●ただ極めて珍しい例外として、中1と中2の3ランクの成績の者の、高校の成績との関連図表が、男女共に理科と数学の間で酷似していることは事実。ただし、これも中3では全く別の型に移行。

●上記ほどではないが、中3の4ランクの成績の者の型が、男女共に社会科と英語の間で、かなり高度の類似。

(2) 理科と社会科についての比較

●5ランクでは理社間に明白な差が存在。男子は中3までに変動幅が上位にしばらく安定化。女子は、理科では中1より0。社会科も少数で、これも中3までに消滅。

●4、3ランクでは例外を除き、理社間に本質的差異が認められない。

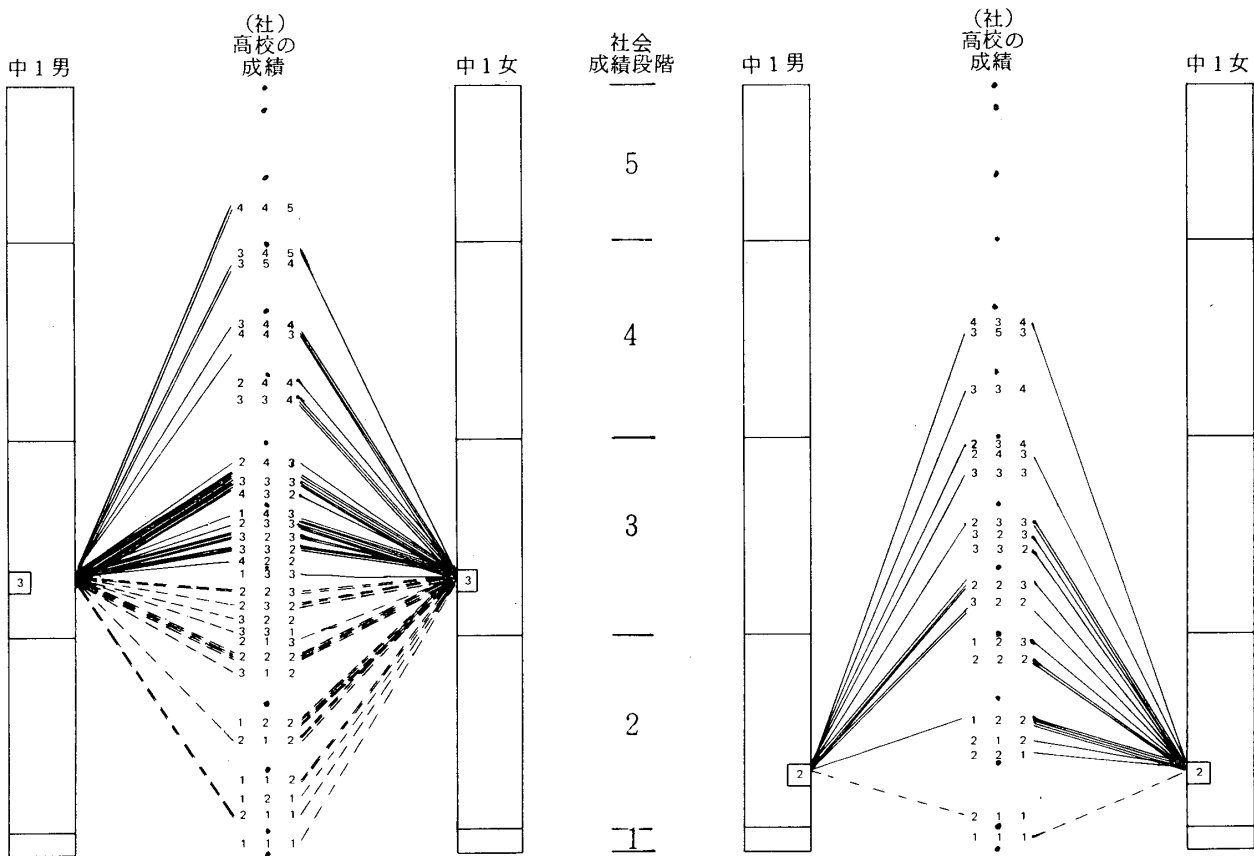
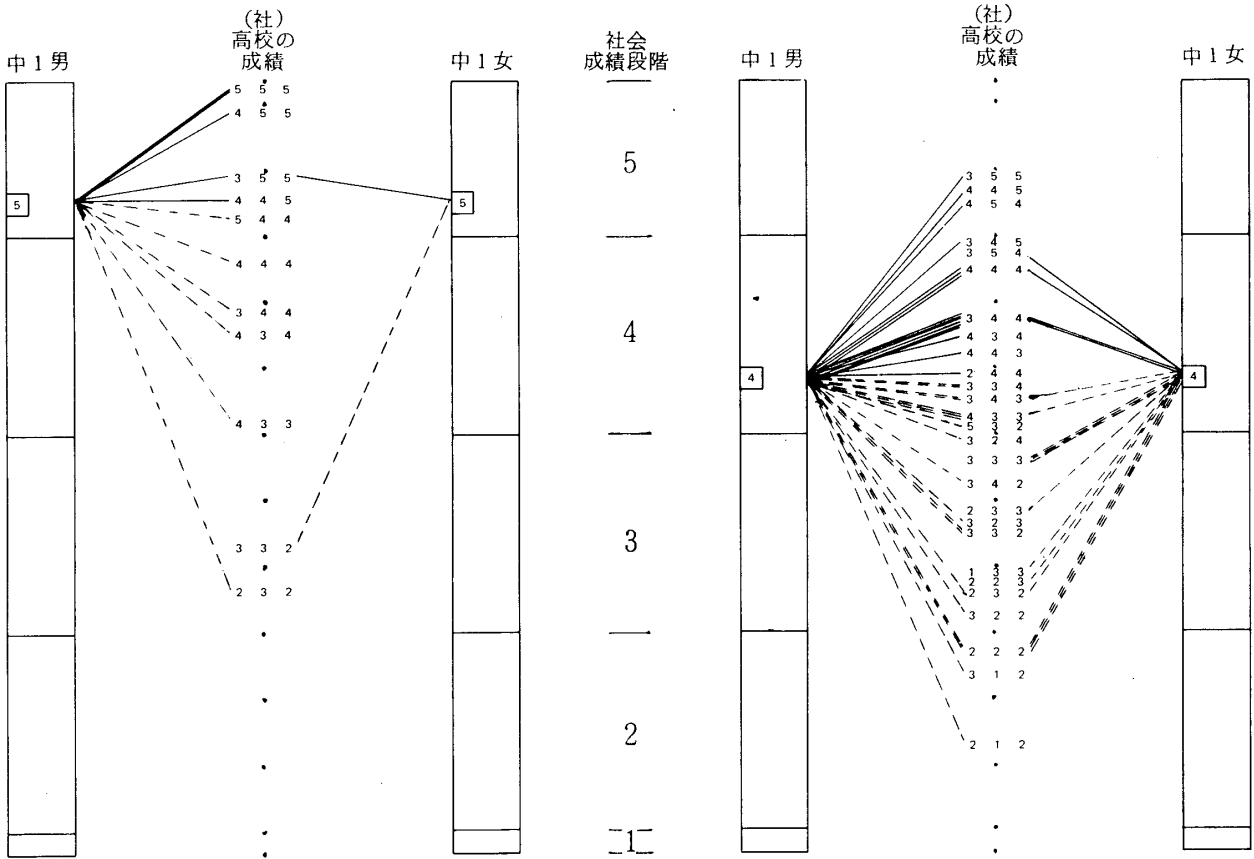
●4ランクについては、男女共に、理科では学年差が認められず、社会科では学年進行と共に成績上昇率増加の傾向。

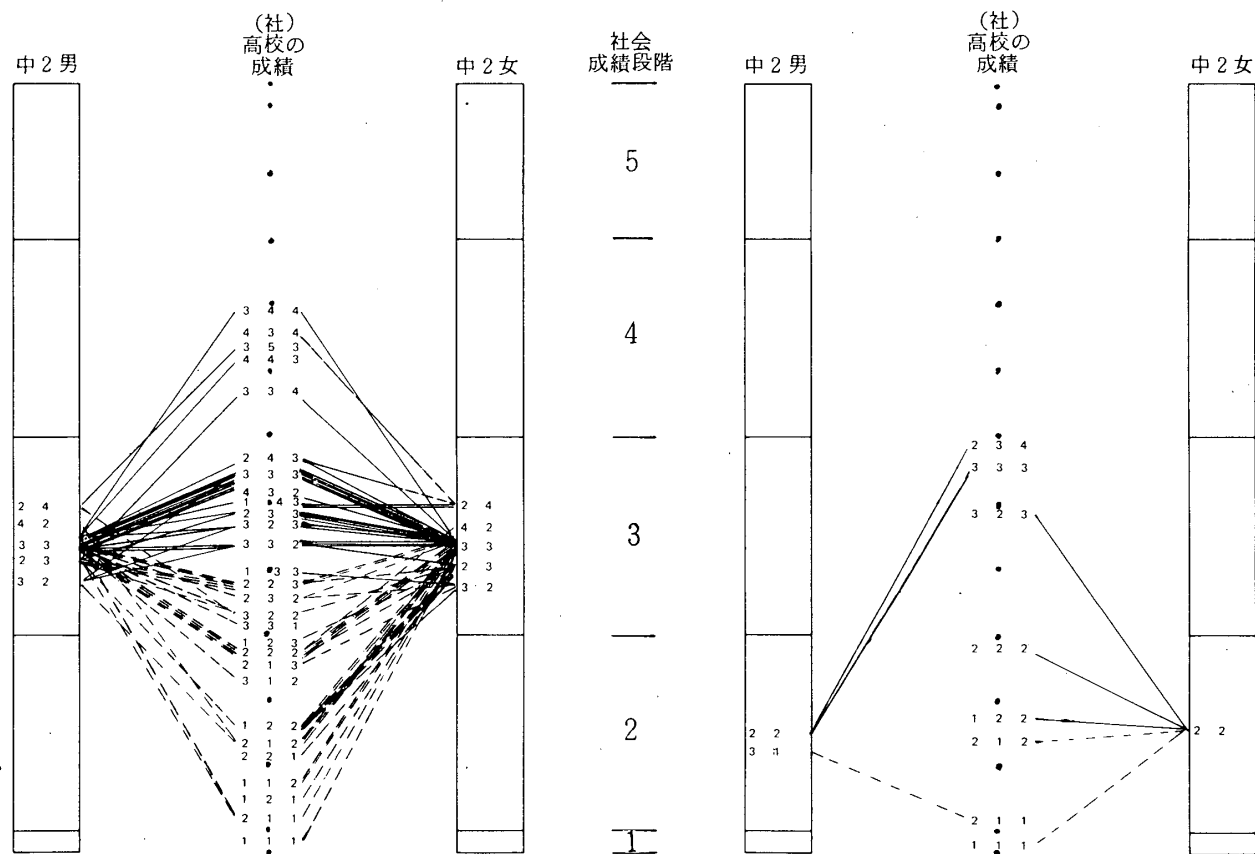
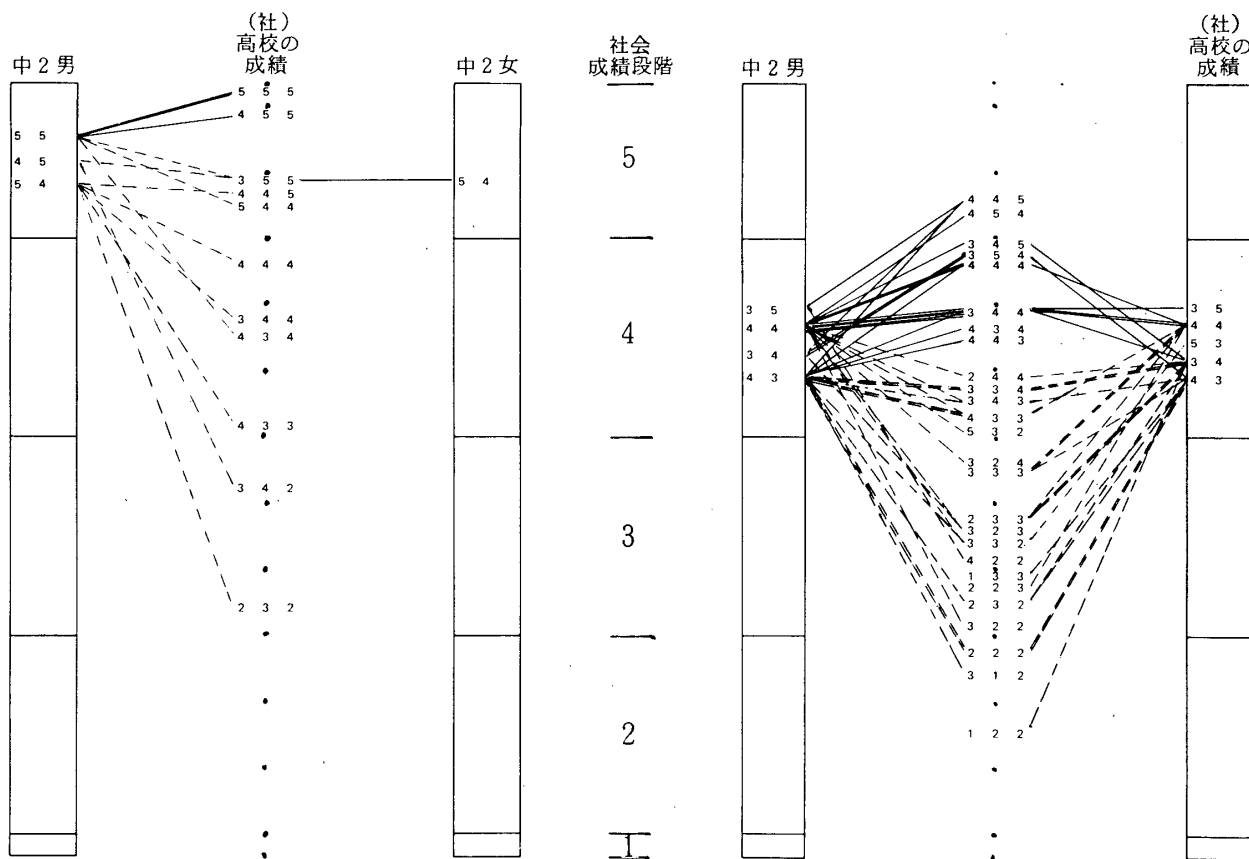
●上記の成績上昇率は、理社共に（特に理科）男子が優位。

●3ランクの生徒は男女共に理科の上昇率は2、3年の間で激減。社会科は、男子の const に対し、女子は理科と同傾向。

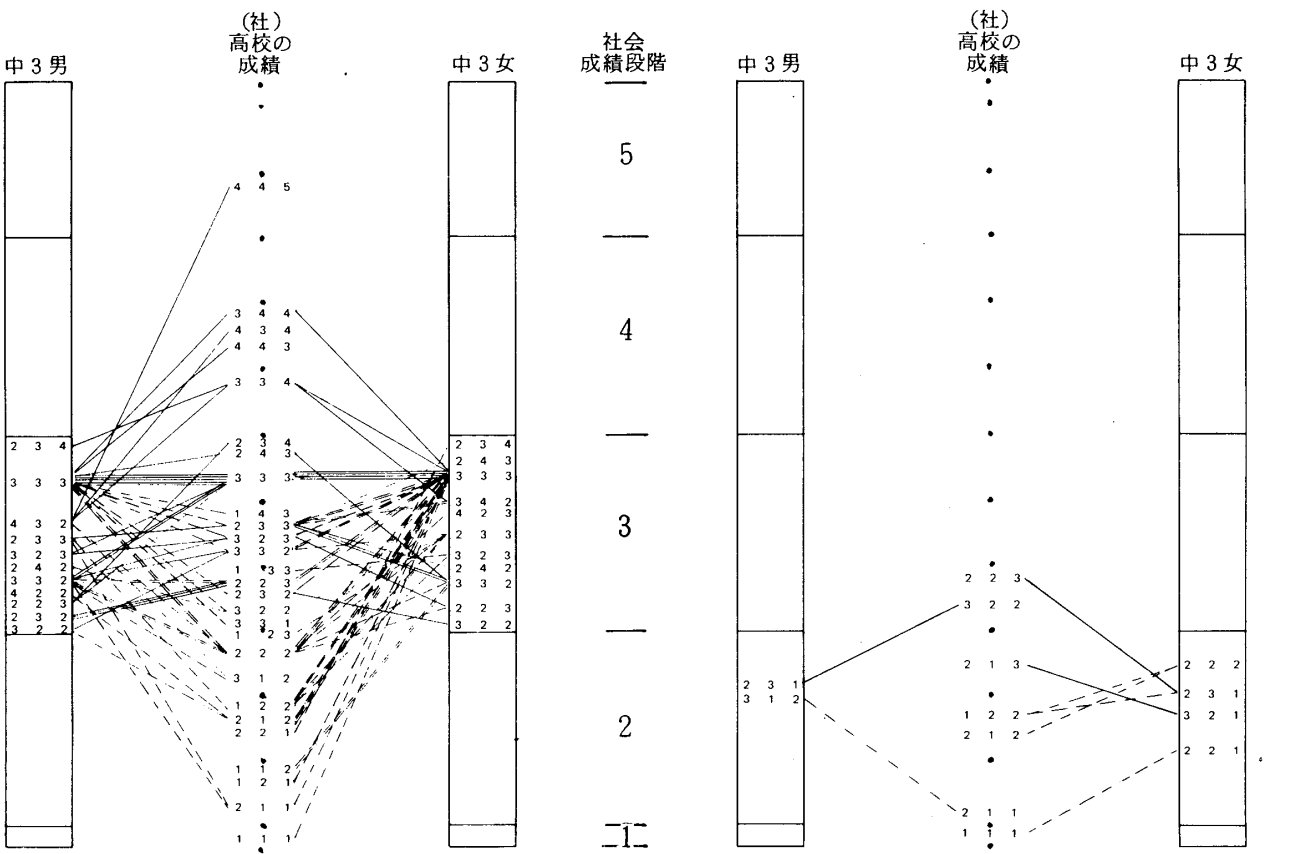
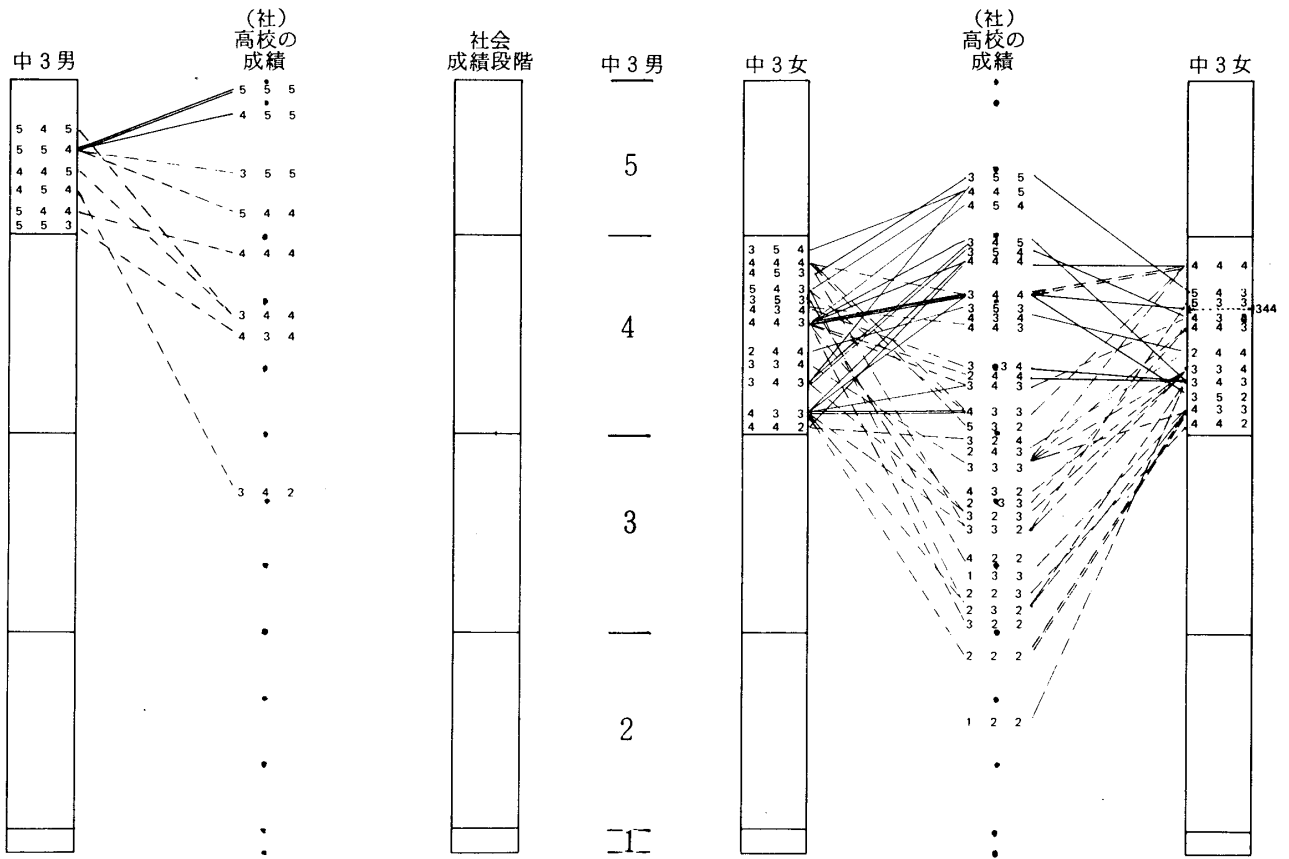
●2ランクの生徒は男女共に、上昇数、上昇幅共に、学年進行と共に激減(理社共通)。ただし、理科では、男子は高校ですべて上昇、女子は逆に下降。それに対し、社会科では、男女共、上昇・下降の確率半々の状態。

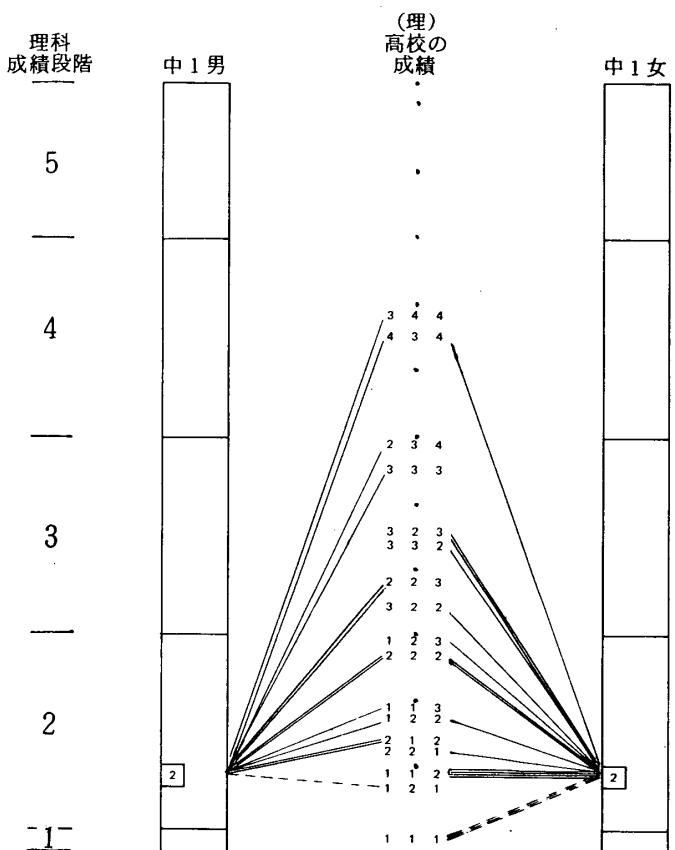
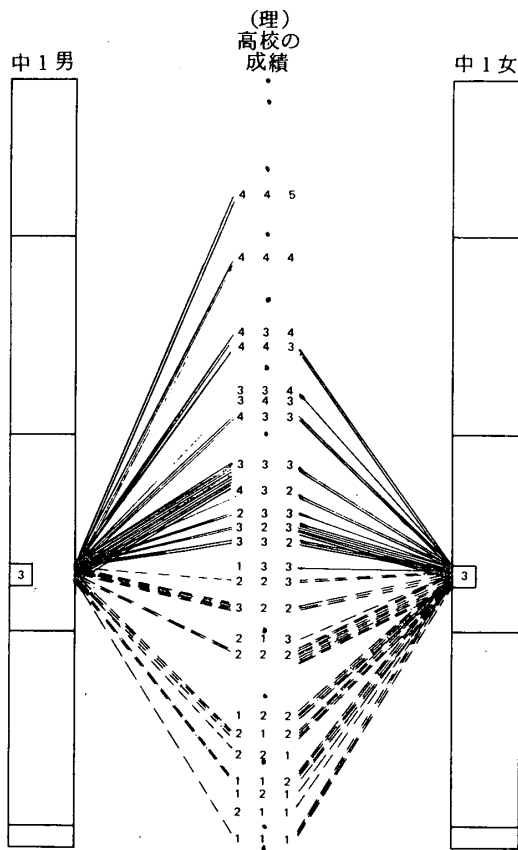
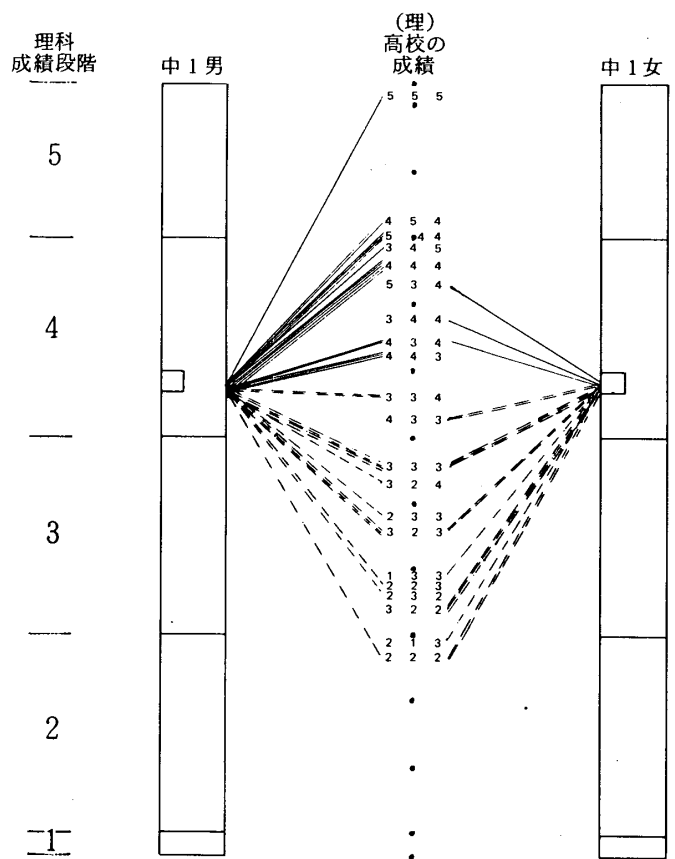
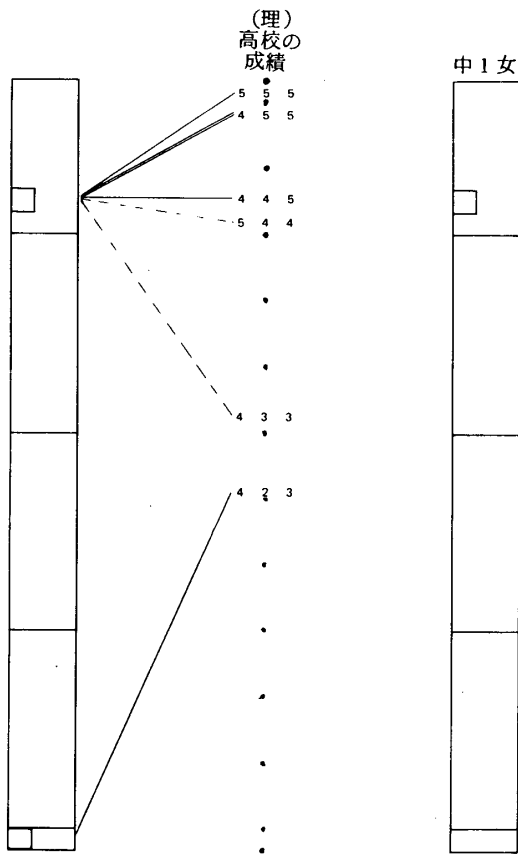
附中から附高への6カ年の学習成績変化の追跡(その6)





附中から附高への6カ年の学習成績変化の追跡(その6)





附中から附高への6カ年の学習成績変化の追跡(その6)

